

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470300375
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所
事業所名	スカイホーム横浜
訪問調査日	平成 19 年 10 月 11 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 15 日
評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1470300375
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所
事業所名	スカイホーム 横浜
所在地	神奈川県横浜市西区岡野2-8-3 KMプラザ (電話) 045-412-6769

評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成 19年 10月 11日	評価確定日	平成 19年 11月 15日

【情報提供票より】(平成19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	21 人	常勤	7人, 非常勤 14人, 常勤換算 11.1人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	4 階建て	3 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 300,000円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月 11日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	67 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	同仁堂田中医院、湘陽かしわ台病院、デンタルサポート
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ひとりの人間として、その人らしく自由に生活して頂く」ことを理念の要とし、利用者が住み慣れた地域の中で、生き生きと暮らし自己実現ができるように支援している。 職員の資質向上に向けて、外部研修の受講のほかに、法人内の月例ホーム長会議を行い連携に努め、ホーム内では管理者の指導により、日常的に研修を行っている。また、グループホーム連絡会で同業者との情報交換を図っている。 毎月の外食や行事、家族と一緒に日帰り旅行、また、ボランティアの協力を得て、墨絵やエアロビクス、音楽会などを取り入れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では改善点は無かったが、利用者家族から要望があった機械入浴については、併設小規模多機能事業所の協力により実現している。 これまでの評価結果は職員に説明し、利用者家族に送付し、玄関に掲示している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) この1年間の業務を振り返り、管理者・職員が参加して自己評価を作成した。今回の外部評価と自己評価も利用者や家族にも見ってもらう予定である。運営推進会議でも取り上げ、サービスの質の向上に取り組みたいとの意向である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 平成19年8月30日に第1回を開催し、自治会長、民生委員、利用者、利用者家族、医療連携看護師、地域ケアプラザ所長、管理者、職員が参加した。会議では、ホームの運営状況報告と防災活動の相互協力について話し合った。今後2ヶ月に1回開催することとしており、次回は10月の開催を予定している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 相談、苦情の申し立て先は重要事項説明書に記載し、家族に説明している。玄関にご意見箱や苦情案内ポスターを置いている。家族の意見や要望は、家族の来訪時や年2回開催する家族会に聞いている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入して、地域の人々と積極的に交流を図っている。地域行事への参加、高齢者の入居相談、中学生の職場体験の受け入れ、多数のボランティア団体の来訪がある。今後、運営推進会議で、地域との連携について話し合っていく意向である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所では、「ひとりの人間として、その人らしく自由に生活して頂く」ことを理念の要としている。認知症の利用者が住み慣れた地域の中で、生き生きと暮らし自己実現ができるように支援している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示している。利用者の入居契約時、職員の採用時に説明している。毎朝の申し送りやカンファレンスで話し合い、日々のサービス提供場面に活かされるように意識づけをしている。時代の流れにあわせ、統一した理念の見直しを行う意向である。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、夏祭り・運動会などの行事に参加している。年末の餅つきでは、つきあがった餅を地域の人や交番などに配り親交を深めている。地域の高齢者の入居相談や中学生の職場体験の受け入れのほか、ボランティア団体からは墨絵・エアロビクス・音楽会など多くの協力を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	この1年間の業務を振り返り、管理者・職員が参加して自己評価を作成した。これまでの評価結果は職員に説明し、利用者家族に送付し、玄関に掲示している。前回の外部評価では改善点は無かったが、利用者家族から要望があった機械入浴については、併設小規模多機能事業所の協力により実現している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年8月30日に第1回を開催した。自治会長、民生委員、利用者、利用者家族、医療連携看護師、地域ケアプラザ所長、管理者、職員が参加した。会議では、ホームの運営状況報告と防災活動の相互協力を話し合った。今後は2ヶ月に1回開催することとしており、次回は10月開催を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の担当課とは事業の相談・連絡を密に行っている。生活保護の指定を受けていることから、福祉事務所とも連絡を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の来訪時に声かけし説明している。突発的な病気・ケガは、電話で知らせている。来訪の少ない家族には、電話をしたり、請求書送付時(月1回)にホーム便り・写真・小遣い帳などを同封して、暮らしぶりを伝えている。ホーム便りは毎月発行し、利用者の様子や行事予定を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情の申し立て先は、重要事項説明書に記載し説明している。家族の意見要望は家族の来訪時や家族会(年2回)で聞いている。玄関にご意見箱を置き、苦情案内ポスターを掲示している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間の異動は原則として行われていない。異動があった際には、利用者にも一日も早く馴染んでもらうため、引継ぎ期間を十分にとり、信頼関係を構築し不安解消に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画があり、全職員が研修を受講している。採用時は内部研修を行う。スキルアップ研修は認知症・介護予防・感染症・衛生管理・終末期医療介護・ICFアセスメントケアプランなど、多種の外部研修を受講している。受講者は報告書を作成し、会議で報告し、全職員に回覧し、情報を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会・ブロック会に加入し、同業者と情報交換を行い、新設グループホームの実習の受け入れも行っている。また、法人内の月例ホーム長会議を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者の居宅を訪問し、利用案内パンフレットでホームの説明を行う。ホームを見学してもらったり、空室がある場合は体験入居して頂き、納得してもらってから入居を決定している。利用者が馴染み落ち着くまでは家族に訪問してもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者から料理や漬物づくりを教わっている。洗濯物たたみ・料理の手伝い・片付けなど利用者や職員は、親子関係のような生活で支えあっている。職員によるオリジナルの体操を取り入れ、2ユニット合同で行うなど喜怒哀楽を共にしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の日々の行動を観察し、家族の意向や希望をアセスメントシートに書き加えている。意向の把握が困難な利用者には、声かけをしたり、利用者の様子を観察して意向を把握し、ケース会議で取り上げ、全職員が共有するよう努めている。飲酒・喫煙も医師と相談して対応している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全職員でカンファレンスを行い、利用者の視点に立った個別具体的な介護計画を作成している。その時の利用者・家族の意向を聞き、自立支援を重点に出来る事、出来ない事、残存機能を引き出すことなどをケース会議で話し合っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居1ヶ月後に介護計画を見直し、心身の状態が安定してきたら、3ヶ月に1回ケース会議を開催して、全職員でモニタリングを実施している。また、状態の変化があった場合は、随時カンファレンスを開催して、介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症に配慮して、月2回専門医の訪問診療がある。併設の小規模多機能型居宅介護事業の機械浴の利用が可能である。利用者が入院した場合は、病院と連携して早期退院に努めている。花見・外食などは、職員が付き添い車で外出支援を行っている。行政の依頼に応じ、生活保護受給の利用者の対応も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族が選択することができる。協力医療機関は内科・歯科は月1回の回診があり、緊急対応も可能である。日常の健康管理には、准看護師資格を所有する管理者とかかりつけ医と連携して対応している。利用者と全職員が年に1回健康診断を受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期医療・介護の外部研修を受講している。ケア対応についてカンファレンスで職員に説明し、事例検討会を行っている。開設後、これまで重度化や、終末期の対象になった利用者はいないが、重度化した場合は利用者・家族と相談して、最善策を協議して対応する。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の取り決めを文書で利用者・職員とも交わしている。重要書類は、事務室の書庫に施錠保管している。訪問調査日の職員態度、言葉遣い、トイレ誘導などは穏やかでさりげない対応であった。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所のスケジュールで生活するのではなく、事業所の理念通り、利用者一人ひとりの生活ペースを大切にしている。必要以上に手を出さず、一歩下がった見守りで自立支援を実践している。起床時間・食事時間を遅らす人がいたり、入浴時間の選択も自由である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れている。食事中はテレビをつけ、利用者同士会話を楽しみながら食事をしている。職員は同じテーブルにつき見守りをしながらさりげなく介助している。利用者はできることを手伝い、準備、後片付けに参加している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各人の入浴・シャワー浴などの希望を聞き、入浴を楽しめるよう支援している。平均的には週に夏季は3回、冬季は2回であるが、毎日入浴することを希望する利用者には希望に沿うように支援をしている。拒否の強い利用者には、タイミングを逃さない、家族から言ってもらうなどの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	漬物のぬか床の管理、縁日で買った亀の世話、裁縫、洗濯たたみなど利用者の役割を大切にしている。毎月、墨絵・エアロビクス・電車を使っての外出などの企画や、四季折々の花見・ひな祭り・七夕・クリスマスなどの行事を行い、生活に張り合いを持たせる工夫をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自立で散歩・買い物ができる利用者は半数程度であるが、職員が付き添い、近隣の商店・公園に散歩に出かけている。車椅子の方には外気浴を支援している。毎月の外出や行事、家族と一緒に日帰り旅行などの楽しそうな写真が、ホーム内に掲示されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はセンサーによるチャイムと見守りで対応し、日中は施錠していない。居室は中から鍵は掛けられるようになっているが、鍵を掛ける人はいない。外窓は通気幅以外は、安全対策としてストッパーを付けている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年に1回防災避難訓練を実施している。救命救急訓練については、近々全職員が受講する予定である。同一建物内に、同一法人のデイサービス及び小規模多機能型居宅介護事業を併設しており、防災行事などの際には連携して実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を把握し、希望を聞いて献立を決めている。一人ひとりの状態に合わせて、刻み食・ミキサー食などを提供している。毎日の摂食量や水分摂取量をチェックシートに記録している。栄養バランス・カロリーチェックについては、系列病院の管理栄養士の点検・助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の家具・照明は一般家庭と同じものを使用している。居間には観葉植物・生け花の他、季節感のある手作りカレンダー・墨絵など利用者の作品、行事の写真等が飾られ、家庭的な雰囲気作りに努めている。畳のコーナーがあり、冬はこたつでくつろげるようになっている。トイレや洗面台は車椅子対応で広いスペースを確保している。仲の良いグループ同士で、三々五々寛いでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての部屋に採光と風通しがあり、明るく清潔である。入居時の説明で、使い慣れた愛着のある家具などの持ち込みを勧めている。居室には馴染みの整理筆筒・テレビ・人形・写真・趣味の用品などが持ち込まれ、居心地よく過ごせる工夫がなされている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	スカイホーム横浜
(ユニット名)	赤い靴・虹の橋
所在地 (県・市町村名)	横浜市西区岡野2-8-3 KMプラザ
記入者名 (管理者)	山田 文子
記入日	平成 19 年 7 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価

赤い靴

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		ボランティアの方や地域中学校の体験学習を受け入れている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		毎月のホーム便りに最近の様子や写真を一枚貼り、日頃の生活をお伝えしています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		年末の餅つきの際にはついたお餅を隣近所、交番のおまわりさんに届け食べていただいたりしています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		公園のチュウリップの球根の堀越しの際に入居者と出掛けお手伝いをさせていただいています。又、球根を分けていただいて来たのをホームのプランターに植えて花の咲くのを楽しみにしています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的に新聞を作成し外の伝言板に掲示し認知症に関する見解を広めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	朝のミーティング時 自己評価を理解出来る様説明し、各々評価し提供し合い その後まとめ、評価の意義についてはスタッフに周知しています。		外部評価の結果は玄関にすぐ見られる様ファイルしてあります。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これからの取り組みとして現在準備中です。家族会を通して運営推進会議のことはお伝えしてあります。		今後のサービスに繋げて行く様 努力していきたいと思えます。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市・区サービス課、高齢担当者には情報提供をしていただいたり、ホーム内の困難事例についてもアドバイスを頂いて居ります。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し、スタッフが事業や制度の理解に努めて居り、御家族への啓蒙も進めています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に何が虐待にあたるか、それはどこが原因となって起こることかを分析し話し合いを行っている。高齢者の虐待防止の定義を廊下に提示しています。		当ホームでは虐待はありません。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用契約時及び解約時に重要事項説明書にもとずき説明するのはもとより、説明書にも明記されています。又、契約の改定をする場合にもその都度連絡し、印鑑を頂く様になっています。</p>	<p>契約の改定をする場合にはその都度連絡し印鑑を頂く様にしています。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情を外部へ表せる旨が明記されています。いつでも連絡が取れる体制を整えています。</p>	<p>当ホームの玄関に苦情受付のポスターを掲示してあります。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月の中頃に請求書と共に金銭出納帳の写しと「ホームたより」に写真を貼りエピソードや職員の移動を記載しお送りしています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回 家族会を開催し意見の交換を行っている。今の処、苦情らしい苦情はありません。あった場合はその都度話し合い速やかに解決案を検討していきたいと思ひます。</p>	<p>あった場合には、その都度話し合いをし、速やかに解決案を検討していきたいと思ひています。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常に職員の意見を聞き入れ透明にしています。又、話せる様な体制を整えて居ります。</p>	<p>朝のミーティング時に意見や提案を聞き反映させています。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>嚙下の悪くなった利用者の為に時間帯のずらしたシフトを組んだり配慮している。又、突然の休みに対して代わりの者が勤務出来る様にしてあります。</p>	<p>希望の休みはスタッフ同士の話し合いで希望の休みを取れる様配慮しています。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>嚙下の悪くなった利用者の為に時間帯のずらしたシフトを組んだり配慮している。又、突然の休みに対して代わりの者が勤務出来る様にしてあります。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・勉強会等には定期的に参加を促しています。研修に参加した職員は朝礼で研修内容を伝えている。	学んで来た事は研修記録を提出し共有している。当、法人は他にもグループホームがあるのでホーム長会議等で助言、指導は受けられる様になっている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会等には加入し、定例会や連絡会への参加、系列のグループホームの研修会にも出席しています。	ブロック会の会議にも積極的に参加をしています。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一人一人の意見を大切にし必要な時には助言を行っています。	定期的な食事会の企画もし、ストレスの発散に心がけています。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則があり守られています。年一回の健康診断も実施されています。	毎年三月に個人評価が提出され、それにより わずかでも昇給出来る様にしている。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	病院に入院中の入居希望の方には病院へ面談に出向き、入居を決める様にしています。又、入居を決定するまで何度かホームに来ていただき馴染んでいただいてから入居する様にしている。	体験入居も取り入れ、馴染んだところで入居していただいています。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の希望を充分理解し、繰り返し話し合いを行い何が不安なのか知る様努めて居ります。	入居決定のマニュアルを作り「入居までの流れ」や「入居にあたって」を使用し、説明している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点ではまずホームに出向いていただき、今何が困っているか、何が不安なのかを具体化しケアマネジャーと連絡を取り必要に応じたサービスをしていける様心がけています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院中の本人には管理者が病院に出向き面談をし、一度はホームに来ていただきホームの雰囲気馴染んでいただき入居の決定をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の得意な事、興味のあることを生活の中で発揮して頂いている。		食器拭き、雑巾縫い、洗濯物たたみ等して頂いています。その時は必ず感謝の言葉を伝えていきます。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂いた時に昔の様子を聞いてケアの参加にしたりしています。家族と一緒に外出し昼食を共に摂り一緒に過ごせる様支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を通して認知症への理解を深めていく様支援している。面会に来て頂ける様働きかけると共に手紙・電話等で連絡が取れる様にしています。		入居者の御家族(お嫁さん)が週一日ボランティアとしてお手伝いにいらしていただいております。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が今まで使っていた居介支のヘルパーさんに来ていただいたりしています。又、甥・孫等、時々面会に見えられています。		本人の希望があった際は電話・手紙は自由にかけたり出したりされています。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士、居間でくつろいでいらっやる時など見守りをし、小さないざこざ等は職員は介入しすぎないように解決策を見い出していただきます。		他の入居者との関わりが難しい方には職員が仲介しその方が主役になれる場の提供をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去の際はその人に合った行き先、サービスの紹介を行っています。		退去後の家族に道でお逢いする時があります。その時その後どうしていますかと声かけし近況を知り安どして居ります。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思確認し尊重する様努めている。お茶の時でも好きな飲み物をチョイス出来る様声かけしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活の様子等、本人又は家族に書いて提供していただき、折々に情報を得ています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事の時は同じテーブルにつき食事の進み具合など気に止め、好みに合った調理にし声かけしながら食事をして居ります。		日勤・夜勤の申し送りや個人記録・業務日誌を活用して居ります。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	少しの変化でもみられた時点でミニケース会議を行う様にしている。家族の意見も取り入れケアに生かせる様にしています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議は3ヶ月ごとに更新し状況に合わせ見直しをしている。ケアプランは6ヶ月ごとに見直しを行っている。		状態に変化があった時は朝の朝礼時にミニケアカンファレンスを行い、その都度 修正して行っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は各々個人日誌に記録し変わったことがあった時には連絡帳や業務日誌の連絡事項の欄を使い共有に努めている。		評価の記録は介護計画の書き替えの時点で記録に残す様にしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一階に小規模多機能があり機械浴が完備されているので必要に応じて使わせていただいている。		利用者が自宅にいた時、利用していたヘルパーがホームに来て下さりご本人と関わりを持たれています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	コーラス・墨絵・エアロビ等、ボランティアの方々の援助により楽しんでいます。		一ヶ月に一度は電車で食事に出掛けています。駅員さんの親切にささえられながら外出を楽しんでいます。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他サービスを利用することにより、実費が生じる為利用して居りません。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	8月に運営推進会議を予定して居り、センター職員に委員を依頼し今後 協力していく事とします。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の内科医の訪問、月二回の認知症専門医の訪診により、投薬の処方を受けアドバイス、相談をしています。デンタルクリニックも利用しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科認知症専門医が月二回の訪問診療に来て下さり、その時点で相談をし適切なサービスを提供しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム職員の看護師が細かに指導し 食事・バイタル・水分チェック・睡眠・排便の有無等、気を配り異常のサインを早期に発見出来る様努めて居ります。		水分チェック表、排便表・バイタル表・月二回の体重測定などを行っています。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時点で病院の医師と連携を取り早期退院出来る様相談し家族と連携をとりながら次の入居先を決めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化して医療面でのケアが必要とされるケースではカンファレンスを繰り返し行いかかりつけ医師の意見を参考にした上で何が最良のサービスなのかスタッフ全員で話し合っています。又、御家族の意向を伺って共にホームでの方針を理解して頂いて居ります。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医師とホームの看護師の指導のもとで、出来ること出来ない事を検討しながら支援を行って居ります。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい生活への要望、自宅での生活環境を把握し、住み替えが可能な限りスムーズに運ぶ様心がけて居ります。又、御家族のいない入居者については福祉課の担当者や病院の医師などから情報を集め入居者本人が自然な姿で生活出来る様環境を整えて居ります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人格を尊重し本人を傷つけない様に対応に配慮している。個人情報保護法に関する契約を事業所と交わし徹底を図っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の希望に沿った趣味や活動・嗜好品のサービスを提供して居ります。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームでの生活は常に入居者が主人公であるというのがホームのモットーの一つです。個々のペースやスタイルを尊重し、その人にふさわしい生活が送れる様支援して居ります。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望に合わせてカット・パーマ・毛染め等、希望通り決めて頂いています。衣類はご家族と相談しながら本人と一緒に買い物に行き選んでいただいています。</p>	<p>横浜駅に近い為、高価なので訪問理美容を利用しています。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>スタッフは見守りながら一緒に食事をし、食事が終わった後は食器を拭いたり、テーブルを拭いたりお手伝いをさせていただいて居ります。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お風呂上りにビールを飲んだり、寝る前に少量のお酒を飲んだり、タバコも屋上で喫煙し楽しんで居ります。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便チェック表を付け、個別の排泄パターンを把握し入居者の様子や兆候も注意を払っています。又、時間でトイレ誘導もしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	生活習慣や希望に合わせて入浴出来る様支援しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は身体を動かす様声かけし、又原因を探り生活パターンを見直し安眠出来る様支援しています。昼食後は居室にて休む様促してはいますが本人の自由としています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お天気の良い日には近くの公園に散歩に出掛け、亀の世話、ぬか床の世話、洗濯物たたみ等、各々役割を持てる様支援しています。		最近では良く電車で食事に出掛けます。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来なくなると家族からの意見が多く、こちらで管理はしていますが、買い物に出掛けた時は入居者の力量に応じて支援しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や外出の希望があった時には希望にそった支援をしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一年に一回のバス旅行を企画し御家族の参加も得られ、楽しい一日を過ごされる様支援して居ります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は日常的に利用出来、子機を使用し居室での通話も可能です。手紙は入居者と一緒に投函しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はなく、いつでも自由に訪問出来ます。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由にする事への見守りの元で日常生活を送って頂いている。スタッフは束縛の弊害については研修等で全員理解している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は鍵はかけず夜間のみ施錠している。音センサーを取り付け一人一人の行動を見ながら配慮している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは入居者の足音、行動を常に把握し見守りを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況の合わせ、洗剤、包丁、漂白剤等は使用後戸棚に片付ける様にしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常にヒヤリ・ハット事故報告の作成によりカンファレンスを行い再発防止に努めています。事故報告者等の書類は用意しており事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを目のつくところに掲示し、全スタッフが把握して居ります。		全職員が緊急蘇生の講習を秋迄に受ける予定にして居ります。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施、業者による定期設備点検、防災頭巾は入居者一人一人用意して居ります。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	電話や面会時、状況報告しています。異常があった時は速やかに家族に連絡する事になっています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックし記録に残し異常のある利用者には訪問診療時医師に報告し、身体状況を日々把握し早期発見出来る様配慮している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個人別に一週間のケースに朝・昼・夕と区分され目的・用法・用量は管理ファイルにて把握出来る様にしている。状況の変化は記録し、その都度家族や医師に報告している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、体操・散歩等取入れ、牛乳、ヨーグルト等、飲食物を工夫し自然排便を促して居ります。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人一人声かけし、歯みがき・うがいをする様支援しています。義歯は夕食後回収しブラシで磨き、洗浄剤に浸けている。		口腔ケアは専門医の指導を受ける予定です。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量チェック表を作成 メニューは栄養士が作ったものを基本にして居ります。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防対応を全職員に周知し、一年中トイレは次亜塩素酸の希釈液で清掃している。インフルエンザは予防接種を受けています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、台布巾・包丁は毎日除菌をし、冷蔵庫チェックは毎日とし、調理器具の取り扱い方、取り決めを台所に掲示して居ります。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には花を植え玄関は引き戸で植物を置き雰囲気作りを心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのつなぎには畳のコーナーがあり、冬にはコタツにし長いソファを置いてくつろげる様にし食堂のテーブルには季節の花を飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツで暖をとりながらお一人でテレビを見られたり、気の合った入居者と自由に過ごし語り合っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物、タンス・ベット等持ち込まれ、自宅であるという気持ちで生活して頂ける様に支援して居ります。		居宅スペースに限りがあるので本人、家族と話し合い居心地良く安全を考えた居室作りをしている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、夕、こまめに居室の換気を行い、不快感を起こす様な臭いが漂わない様気をつけている。冷暖房、温度調節は常に適温になる様気を配っています。		必要に応じて消臭スプレー等使用している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の個人の状態に応じ、シルバーカー・歩行器を使用 風呂場入り口には手摺り 玄関の靴脱ぎ場には折りたたみの備え付け椅子を設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	グループに分け頭の体操や塗り絵、雑巾縫いをしていただいで居ります。居室入り口に表札を掛けドアに目印を貼る等して工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上にはプランターを用意してありチューリップの球根を植え花が咲くのを楽しみにしている。		

. サービスの成果に関する項目		赤い靴	
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

準備中です。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

このユニットは9名中6名が車椅子（外出時）という状況の中で御家族の協力を得ながら一ヶ月に一度は電車で食事に出掛けたりしています。駅員さんの親切さにささえながら外出を楽しんで居ります。

地域密着型サービス評価の自己評価票 虹の橋

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		ボランティアの方や地域中学校の体験学習を受け入れています。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		毎月のホーム便りに最近の様子や写真を一枚貼り、日頃の生活をお伝えしています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		年末の餅つきの際にはついたお餅を隣近所、交番のおまわりさんに届け食べていただいたりしています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		公園のチュウリップの球根の堀越しの際に入居者と出掛けお手伝いをさせていただいています。又、球根を分けていただいて来たのをホームのプランターに植えて花の咲くのを楽しみにしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的に新聞を作成し外の伝言板に掲示し認知症に関する見解を広めています。		認知症への理解を深める為、講座等も計画して行きたいと思っております。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	朝のミーティング時 自己評価を理解出来る様説明し、各々評価し提供し合い その後まとめ、評価の意義についてはスタッフに周知しています。		外部評価の結果は玄関にすぐ見られる様ファイルしてあります。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これからの取り組みとして現在準備中です。家族会を通して運営推進会議のことはお伝えしてあります。		今後のサービスに繋げて行く様 努力していきたいと思っております。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市・区サービス課、高齢担当者には情報提供をしていただいたり、ホーム内の困難事例についてもアドバイスを頂いて居ります。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し、スタッフが事業や制度の理解に努めて居り、御家族への啓蒙も進めて居ります。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に何が虐待にあたるか、それはどこが原因となって起こることがかを分析し話し合いを行っている。高齢者の虐待防止の定義を廊下に提示しています。		当ホームでは虐待はありません。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、重要事項説明書の項目を一つ一つ説明し、ご家族と読み合わせ 疑問点等は説明しています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で利用者さんの観察を行い意見が出やすい雰囲気を作り、不満・苦情等も出して頂く中で治らない場合は上に意見を持って行く様にしています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的にご家族へお知らせや金銭台帳を送りチェックして頂いて居ります。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に家族会を行い、意見交換を行い、来られないご家族には報告書を送らせて頂いて居ります。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼や定期的な合同会議等で管理者・職員間の問題等を話し合い運営に反映させています。</p>		朝のミーティング時に意見や提案を聞き反映させています。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>嚙下の悪くなった利用者の為に時間帯のずらしたシフトを組んだり配慮している。又、突然の休みに対して代わりの者が勤務出来る様にしております。</p>		希望の休みはスタッフ同士の話し合いで希望の休みを取れる様配慮しています。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>嚙下の悪くなった利用者の為に時間帯のずらしたシフトを組んだり配慮している。又、突然の休みに対して代わりの者が勤務出来る様にしております。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・勉強会等には定期的に参加を促しています。研修に参加した職員は朝礼で研修内容を伝えています。	学んで来た事は研修記録を提出し共有している。当、法人は他にもグループホームがあるのでホーム長会議等で助言、指導は受けられる様になって居ります。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会等には加入し、定例会や連絡会への参加、系列のグループホームの研修会にも出席しています。	ブロック会の会議にも積極的に参加をしています。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一人一人の意見を大切にし必要な時には助言を行っています。	定期的な食事会の企画もし、ストレスの発散に心がけています。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則があり守られています。年一回の健康診断も実施されています。	毎年三月に個人評価が提出され、それにより わずかでも昇給出来る様にしています。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	病院に入院中の方には病院へ面談に出向き、入居を決める様にしています。又、入居を決定するまで何度かホームに来ていただき馴染んでいただいてから入居する様にしています。	体験入居も取り入れ、馴染んだところで入居していただいています。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の希望を充分理解し、繰り返し話し合いを行い何が不安なのか知る様努めています。	入居決定のマニュアルを作り「入居までの流れ」や「入居にあたって」を使用し、説明しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点ではまずホームに出向いていただき、今何が困っているか、何が不安なのかを具体化しケアマネジャーと連絡を取り必要に応じたサービスをしていける様心がけています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者さんの個性に合わせてディサービスのよう何日か過ごして頂いたり、又 部屋が空いていれば何日か泊まって頂いたり御家族、本人共に納得して頂き理解を深めてもらっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者さんそれぞれのバックボーンを把握出来る様ご家族・ご本人よりお話しを伺いご本人の大切にしている事、物など拾い上げて行く様にして居ります。		利用者さんの出きる事したい事等、積極的にお手伝いをして頂いて居ります。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時にお話しを伺い、お互いの協力体制を立ち上げて関係を築いて居ります。		家族会や面会時には近況を説明し、何かあった場合には随時連絡が取れる様にして居ります。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と本人の間にどのような歴史を築いて来たのかお話しを伺い又、認知症に対しての理解を深めて頂き、職員がクッションとなり調整を行って居ります。		あまり面会等に来られないご家族に対し面会や外出等の声掛け、又近況のお知らせ等まめに行う様にしています。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が今まで使っていた居介支のヘルパーさんに来ていただいたりしています。又、甥・孫等、時々面会に見えられています。		本人の希望があった際は電話・手紙は自由にかけたり出したりされています。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	基本的には職員は一歩しりぞいた状態で見守りを行い、入居者の付き添いを大切にしています。		他の方とコミュニケーションの取れない利用者さんには職員が間に入り回りの方に理解して頂く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去の際はその人に合った行き先、サービスの紹介を行っています。		退去後の家族に道でお逢いする時があります。その時その後どうしていますかと声かけし近況を知り安どして居ります。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の希望、訴えをすくい上げ、なるべく実行出来る事は行い難しい事もご家族や職員間のカンファレンスにより実現に向けて努力しています。		何故、その様な訴えや希望が出るのか原因を探っております。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活の様子等、本人又は家族に書いて提供していただき、折々に情報を得ています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の睡眠時間や食事量、排便状態等チェックし、気になる言動等も取り上げて心身状態の把握に努めて居ります。		日勤・夜勤の申し送りや個人記録、業務日誌、連絡帳等を活用しています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	少しの変化でもみられた時点でミニケース会議を行う様にしている。家族の意見も取り入れケアに生かせる様にしています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議は3ヶ月ごとに更新し状況に合わせ見直しをしている。ケアプランは6ヶ月ごとに見直しを行っています。		状態に変化があった時は朝の朝礼時にミニケアカンファレンスを行い、その都度 修正して行っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は各々個人日誌に記録し変わったことがあった時には連絡帳や業務日誌の連絡事項の欄を使い共有に努めています。		評価の記録は介護計画の書き替えの時点で記録に残す様にしています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問診療(内科・精神科・歯科)の活用 小規模多機能施設内にある機械浴等を活用して居ります。		4F入居者と3F入居者がお互い訪問し合い談話を楽しまれて居ります。(姉妹入居者があり)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	コーラス・墨絵・エアロビ等、ボランティアの方々の援助により楽しまれています。		一ヶ月に一度は電車で食事に出掛けています。駅員さんの親切にささえられながら外出を楽しんで居ります。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他サービスを利用することにより、実費が生じる為利用して居りません。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	8月に運営推進会議を予定して居り、センター職員に委員を依頼し今後 協力していく事とします。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の内科医の訪問、月二回の認知症専門医の訪診により、投薬の処方を受けアドバイス、相談をしています。デンタルクリニックも利用しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科認知症専門医が月二回の訪問診療に来て下さり、その時点で相談をし適切なサービスを提供しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム職員の看護師が細かに指導し 食事・バイタル・水分チェック・睡眠・排便の有無等、気を配り異常のサインを早期に発見出来る様努めて居ります。		水分チェック表、排便表・バイタル表・月二回の体重測定などを行っています。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時点で病院の医師と連携を取り早期退院出来る様相談し家族と連携をとりながら次の入居先を決めています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化して医療面でのケアが必要とされるケースではカンファレンスを繰り返し行いかかりつけ医師の意見ご家族の意向をふまえ、何が最良のサービスなのかスタッフ全員で話し合っています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医師とホームの看護師の指導のもとで、『出来ること・出来ない事』を検討しながら支援を行って居ります。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい生活への要望、自宅での生活環境を把握し、住み替えが可能な限りスムーズに運ぶ様心がけて居ります。又、御家族のいない入居者については福祉課の担当者や病院の医師などから情報を集め入居者本人が自然な姿で生活出来る様環境を整えて居ります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の人格を尊重し言葉掛けや対応に配慮している。個人情報保護法に関する契約を事業所と交わし徹底を図っています。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の主体性を尊重しよく傾聴し希望に沿った趣味・嗜好品・活動等に心がけて居ります。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの生活は入居者が主体性を持ち個々のペースやスタイルを尊重し、その人らしい生活が送れる様支援して居ります。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望する髪型を日頃から傾聴の機会を作り、時には毛染め・パーマ等も行う。衣類はご家族と相談しながら本人と一緒に買い物に行き選んでいただいております。	横浜駅に近い為、理美容店が高価なので訪問理美容を利用しています。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理時等 参加して頂き、作る事の楽しさを共に共有している。又、片付け等も出来る限りお手伝いをして頂いております。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調を考慮しつつお風呂上りにビールを飲んだり、希望があれば寝る前にお酒を飲んだり、屋上にてタバコの喫煙も楽しまれて居ります。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便チェック表を付け、個別の排泄パターンを把握し入居者の様子や兆候にも注意を払っています。又、時間でトイレ誘導もしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	生活習慣や希望に合わせて入浴出来る様支援しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は身体を動かす様声かけし、又原因を探り生活パターンを見直し安眠出来る様支援しています。昼食後は居室にて休む様促してはいますが本人の自由としています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お天気の良い日には近くの公園に散歩に出掛け、亀の世話・植木の水やり・洗濯物たたみ等、各々役割を持てる様支援しています。		付きに一度は電車又は徒歩で食事に出掛けます。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来なくなると家族からの意見が多く、こちらで管理はしていますが、買い物に出掛けた時は入居者の力量に応じて支援しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や外出の希望があった時には希望にそった支援をしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一年に一回のバス旅行を企画しご家族にも参加して頂き、楽しい一日を過ごされる様支援して居ります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は日常的に利用可。、子機使用にて居室内での通話も可能です。手紙は入居者と共に投函し、本人が望めばその都度対応して居ります。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はなく自由に訪問出来る様になって居ります。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	主体性の尊重 自己決定を尊重し、自由にする事への見守りの元で日常生活を過ごして頂く。スタッフは束縛の弊害については研修等で全員理解しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は鍵はかけず夜間のみ施錠している。音センサーを取り付け個々の行動を見ながら安全に配慮しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげない声掛けや日常の行動を把握し見守りを行っていきます。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせ洗剤・漂白剤等、戸棚に片付け 危険物と分かりやすく表示してあります。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常にヒヤリ・ハット事故報告の作成によりカンファレンスを行い再発防止に努めてる。事故報告者等の書類は用意し常に目にするところへ設置しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを目のつくところに掲示し、全スタッフが把握しています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施、業者による定期設備点検、防災頭巾は入居者個々に用意して居ります。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	常時、電話や面会時に状況報告し、異常があった時は速やかにご家族に連絡して居ります。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックし記録に残し異常のある利用者には訪問診療医師に報告し、身体状況を把握し早期発見に努めて居ります。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個人別に一週間単位にセットし、朝・昼・夕と区分し目的・用法・用量は管理ファイルにて把握出来る様にしている。状況の変化は記録し、その都度家族や医師に報告しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握し、体操・散歩等 取り入れ、食物繊維・乳製品摂取に工夫し、自然排便を促して居ります。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、主体性を尊重し、個々に合った声掛けにより歯みがき・うがい等支援している。義歯は食後回収し、ブラシで磨き洗浄剤に浸けています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量のチェック表を作成。メニューは栄養士の作ったものを基本にしています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防対応を全職員に周知し利用者の方にも手洗いうがいを徹底し一年を通しトイレは次亜塩素酸の希釈で清掃している。インフルエンザは予防接種を受けています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は毎日除菌し、食材・冷蔵庫のチェックも毎日行う。器具の取り扱い方は取り決めに分かりやすく台所に掲示しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には安全歩行出来る様工夫をし、植物を置き雰囲気作りをしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	棚やテーブルには季節の花を飾っており、リビングは利用者さんが思いやりにくつろげる様コタツやソファ等を置いています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やコタツも気の合った利用者同士、自由に過ごせる空間作りに努めて居ります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物 タンス・ベット等をお持ち頂き自室同様に過ごせる様配慮して居ります。		限りあるスペースを最大限利用して頂き家族と話し合いながら安全な居心地の良い居室作りをして居ります。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝・夕こまめに居室の換気に不快感を起こさない様配慮して居ります。室温は空調設備により常に適温になる様配慮して居ります。		必要に応じて芳香剤や消臭スプレー等で対応しています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のレベルに合った安全な移動方法(シルバーカー・歩行器)を利用し、廊下・風呂場等は手摺りの設置 玄関には備え付けの椅子を設置し、靴の脱ぎ履きがスムーズに行える様配慮して居ります。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口には表札を掛け、個人の目印を貼る等工夫している。日々の体調や気分に合わせて塗り絵・体操・頭の体操時にはグループ分けをし混乱を防ぎ行って居ります。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上にはプランターに花を植え水やりやベンチを設置しくつろぎのスペースを作っています。		

. サービスの成果に関する項目		虹の橋	
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

準備中です。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

御家族の協力を得ながら一ヶ月に一度は電車で食事に出掛けたりしています。駅員さんの親切さにささえながら外出を楽しんで居ります。